

「火山がつくる地形 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

子どもたちが調べてみたいと選んだ火山は、およそ私の予想通りだったが、しかし、授業をする側としては、どうしても加えたい火山がいくつかあったので、それらを付け加えることにした。以下の表がその火山と、私が付け加えた理由である。

	火山名	場所	選んだ理由
教師	爺爺岳	北海道 国後島	極めて美しい複式成層火山。我が国の領土である、北方領土随一の活火山。爺爺(チャチャ)は、アイヌ語で「お爺さん」の意味。
	北海道駒ヶ岳	北海道	美しい成層火山。函館本線からよく見える。立体地図から山容を想像するのが面白い。
	浅間山	長野 群馬	国内有数の活火山。火山活動が活発で、2019 年にも小規模な噴火を起こしている。浸食が進んでいないので、深い谷が少ない。
	三宅島	東京	東京にある火山では、最も噴火口の形がわかりやすい。
	富士山	山梨 静岡	最も均整のとれた活火山。寄生火山が多く、それらが南南東～北北西に並んでいる。

子どもたちが選んだ火山に、私が選んだものを付け加え、それを地図上にマークして示したのがこの図だ。



図の各火山名の脇には、基本的な火山の情報を載せてある。以下がその凡例である。

成=成層火山(富士山型)  
 丘=溶岩円頂丘(溶岩ドーム)  
 カ=カルデラ  
 外=外輪山  
 湖=火口湖・カルデラ湖  
 群=火山群  
 崩=山体崩壊  
 マ=マール(丸い爆裂火口)  
 寄=寄生火山(側火山)  
 複=複合成層火山  
**数字は「最後の噴火が今から何年前か」**

個々の火山のすべての情報を載せると煩雑になるので、特徴的なものを選んで載せた。また、マグマの性質(たとえば玄武岩質か安山岩質か)も、本来は重要な情報なのだが、今回は「火山がつくる地形」ということが学習の中心なので、地形を地図で読める情報を中心にした。

一番重要なのは、「今からおよそ何年前に最後の噴火があったか」という情報である。それも図の中に示すことにした。一般に火山は最後の噴火があつてからの年月が長いほど、山体の浸食が進行する。富士山(約300年前)と羊蹄山(蝦夷富士/約千年前)はよく似た山容だが、浸食の具合は羊蹄山のほうが進んでいて、放射谷が深いことが読み取れるのだ。これは5年の「流れる水のはたらき」の学習内容が活かされる、大切な観点であると考えている。

